

次期環境総合計画に関する第1回部会における委員コメント

(発言順)

<p>(加賀委員)</p> <p>○今後10年を見据えると、電気自動車や自動運転のような都市の構造自体にも影響してくるエポック的な技術を視野に入れて計画・取組みを考えたほうがよい。</p>
<p>(貫上委員)</p> <p>○いろいろな見方があり、経済的なものも含めてどのように優先度をつけていくのか、難しいところ。</p> <p>○大阪府だけが世界的な課題に一生懸命取り組むことについて、府民に対してどの程度理解を求められることができるのか。例えば、近畿圏の他の都道府県との間で、どうタイアップしていくのかなどが次の課題。</p>
<p>(阪委員)</p> <p>○優先度については、マテリアリティ分析の考え方が使えるのではないかと。</p> <p>○お金の流れをESG投資に向けていくことが、最終的に企業の行動を変えていくことになる。大阪府だけでなができるのかという難しい点はあるが、うまくESG投資拡大の流れに乗っていけるような政策なりがとれたらいい。</p> <p>○「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」について、リーダーシップを発揮してほしい。</p>
<p>(近藤委員)</p> <p>○世界の中で大阪が何をやるのかという点、非常に難しいところだが、公害を克服した歴史、優れた環境技術などを活かし、アジアの模範となるような大阪を目指し、世界展開していくということを考えてはどうか。</p> <p>○大気汚染防止は、SLCPs（短寿命気候汚染物質）減少による地球温暖化の緩和につながる。</p>
<p>(秋元専門委員)</p> <p>○まず、我々として大きなビジョンをどうするのかという議論が必要で、そのビジョンが府民や世の中に納得されるような、幅広く共有できるような大きなビジョンを明確化させることが重要。そのうえで、具体的なターゲットをつくっていくことが必要。</p> <p>○大きなビジョンの1つとしてSDGsがあり、目標年次が一緒なので、どう同時達成していくのかということが非常に重要な課題。</p> <p>○環境の視点も重要だが、我々はいろいろなマルチアジェンダを持っているので、全体が統合され、シナジーやコベネフィットを生むような目標づくりができればいい。統合的な世界観をもって、ほかの物質にどう体化(embody)されているのかという点も含めて、統合的なビジョンをもつことによって、頑張ってるんだというところを見せれたらいい。</p> <p>○また、完全自動運転車や水素などエポック的な技術が都市構造そのものを変えることが予想されるが、大きな都市構造を変えるためにはすごく時間がかかるので、「我々はそういう方向に向かうんだ」ということを早めに入れ込んでいくことが重要。どのようなまちづくりをしていくのかについても考えていきたい。</p>

(三輪専門委員)

- SDGsをどのように取り込んでいくかについて、いつも悩んでいる。すべてのものが、我々の行動と関係しているということを考えると、府民全体がどれだけSDGsを理解して、自分事として行動していくのかという、別のベクトルも必要ではないか。
- 個別計画と上位計画との関係が難しい。
- 民間も含めて大阪が世界に大きく貢献できるものについての見せ方・伝え方・運び方をどう織り込んでいくのかについても大事。

(石井部会長)

- 都市の環境問題も重要だが、大阪を含めて、世界全体の生物多様性の劣化が深刻な状態になっていることについても考慮すべき。